

政策評価制度/京都市市民生活実感調査(平成 23 年度)

◇調査の目的

京都市が取組を進めている様々な分野において、市民の皆様がどのような実感をお持ちなのか、また何を重要と感じておられるのかについて、総合企画局が標記調査を行いました。

当調査回答を集計、分析し、その結果を市の政策評価に反映させるとともに、市の仕事を効果的に進めるための重要な情報として活用します。

◇調査の概要

調査対象・・・20 歳以上の京都市民 3,000 人（住民基本台帳登録者及び外国人登録者から無作為抽出）

調査期間・・・平成 23 年 5 月 12 日～6 月 3 日

調査内容・・・政策ごとの生活実感（130 項目）、政策についての重要度（27 項目）及び市政関心度（1 項目）

調査方法・・・郵送により調査票の配付及び回収を行いました。

※政策ごとの生活実感については、設問が多いため、2 組に分けて実施

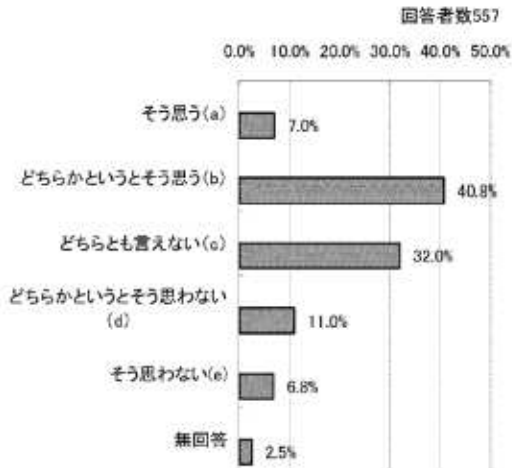
調査結果・・・回収状況 有効回答数 1,157（回収率 38.6%）

※全項目の中から、地域福祉に関連する項目を抜粋しています。

平成 23 年度京都市市民生活
事態調査 回答結果

市民生活とコミュニティ

Q9. 地域の一員として安心して暮らせるまちになっている。



市民生活とコミュニティ

Q10. 多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。



市民生活とコミュニティ

Q9. 町内会・自治会などの地域の組織の活動が盛んである。



市民生活とコミュニティ

Q10. 地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。



子育て支援

Q30. 子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。



子育て支援

Q31. 必要なときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。



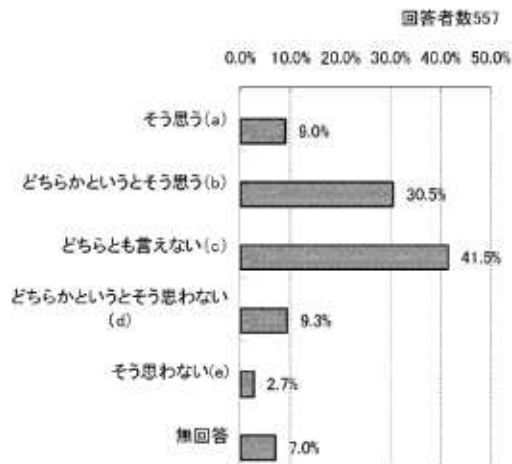
子育て支援

Q32. 子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。



子育て支援

Q31. 京都では、子どものいのちと人権が大切にされている。



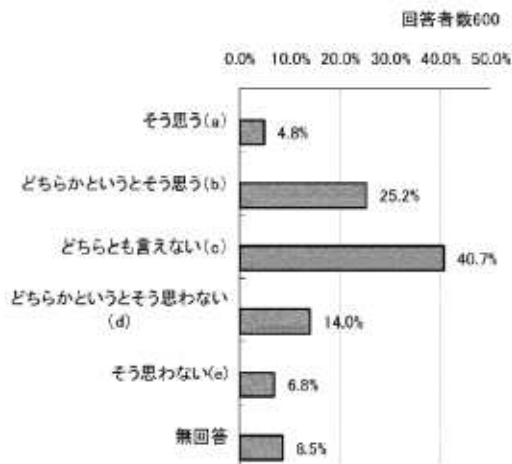
子育て支援

Q32. 働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。



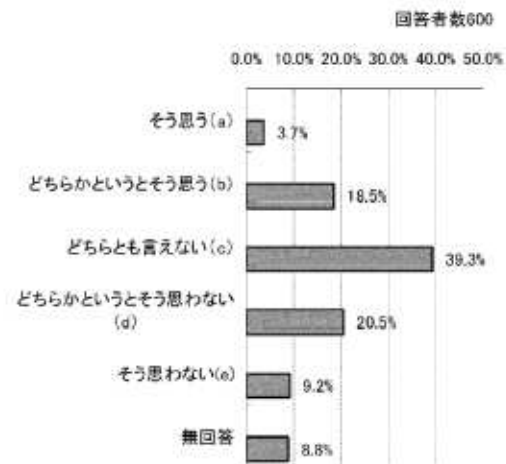
障害者福祉

Q33. 障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。



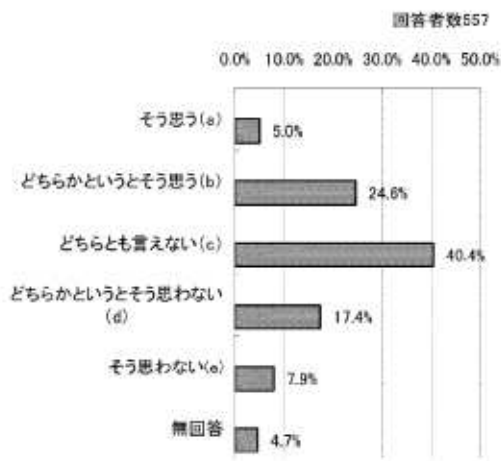
障害者福祉

Q34. 働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。



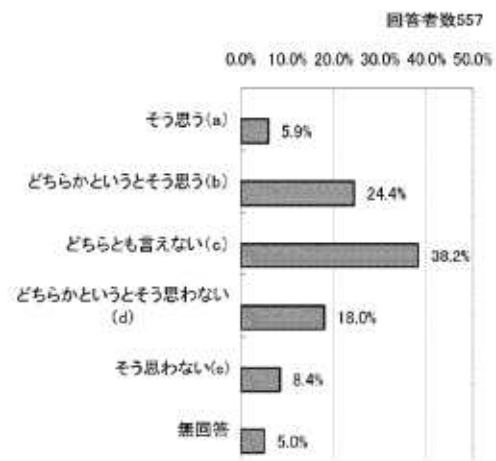
障害者福祉

Q33. 障害への理解が進み、障害のあるひとにもないひととも、認め合い、支え合ってらせるまちになっている。



障害者福祉

Q34. バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。



地域福祉

Q35. 地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。



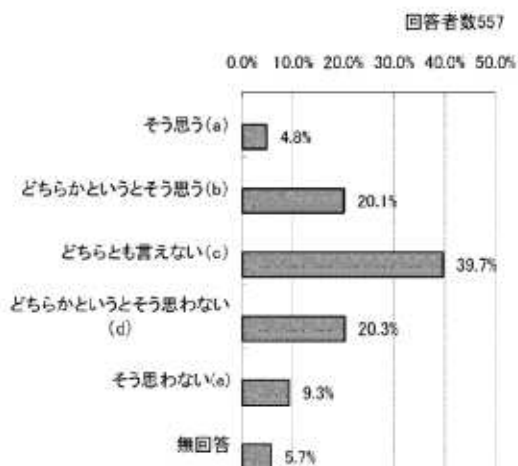
地域福祉

Q36. 地域のつながりが福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。



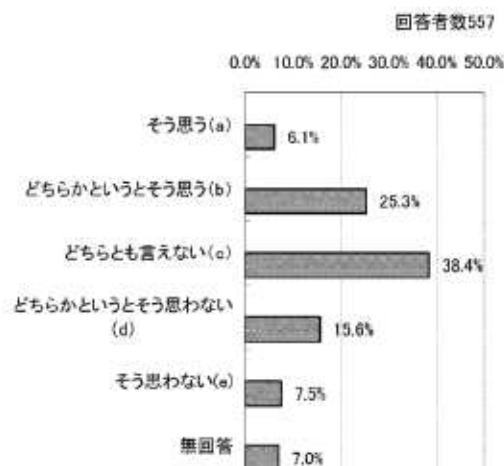
地域福祉

Q35. 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。



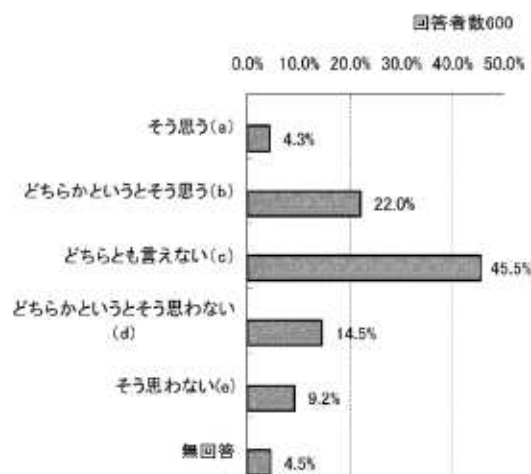
地域福祉

Q36. 地域において福祉にかかわる民生委員などのボランティアのひとびとが活発に活動している。



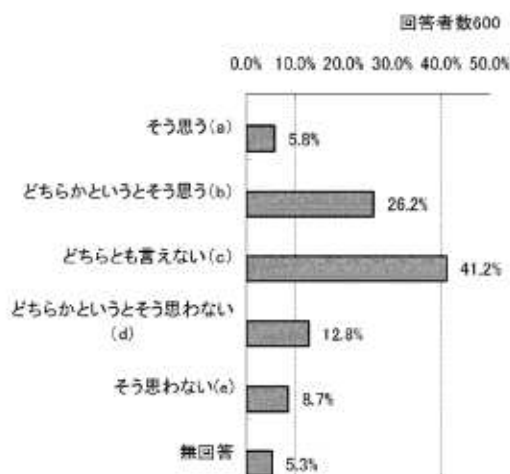
高齢者福祉

Q37. 高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。



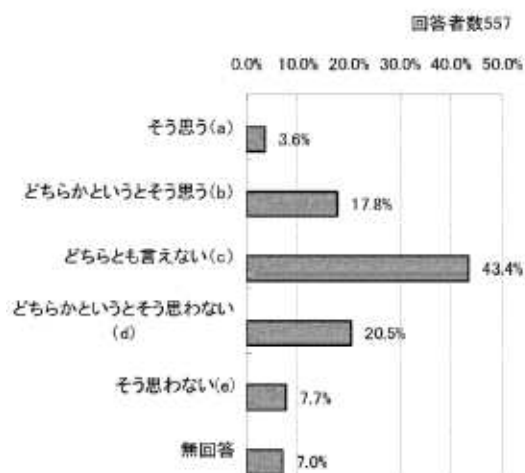
高齢者福祉

Q38. 介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしい暮らしを送れている。



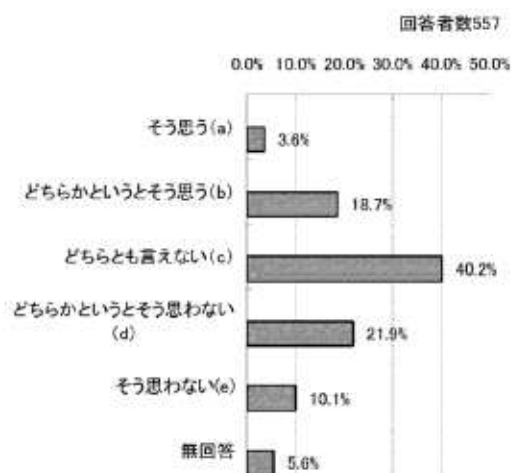
高齢者福祉

Q37. 高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。



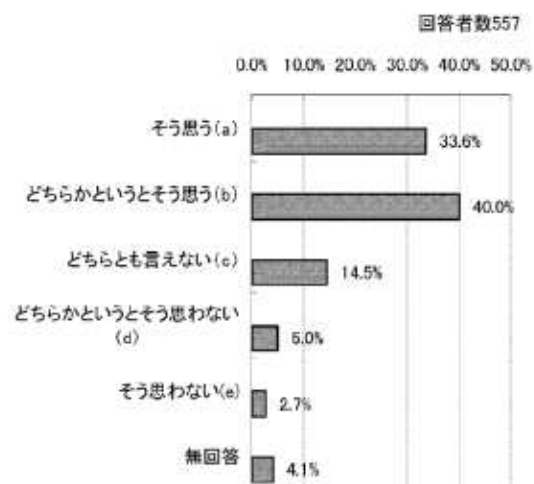
高齢者福祉

Q38. 高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してくらせるまちになっている。



高齢者福祉

Q39. 高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。



政策重要度と市民生活実感のマトリックス

市民生活実感調査において以下の方法により調査した、「政策重要度」と「市民生活実感」の関係を図示しています。

・政策重要度

政策について、重要と思うものを5つまで選択してもらい、それぞれの政策を選んだ方の有効回答者数に占める割合（％）

・市民生活実感

市民生活実感調査の結果を点数化し、政策ごとに平均化した数値

【点数化の方法】

各回答について、「そう思う」に2点、「どちらかというと思う」に1点、「どちらともいえない」に0点、「どちらかというと思わない」に－1点、「そう思わない」に－2点を乗じ、それらの合計を有効回答数で除する。

(例)

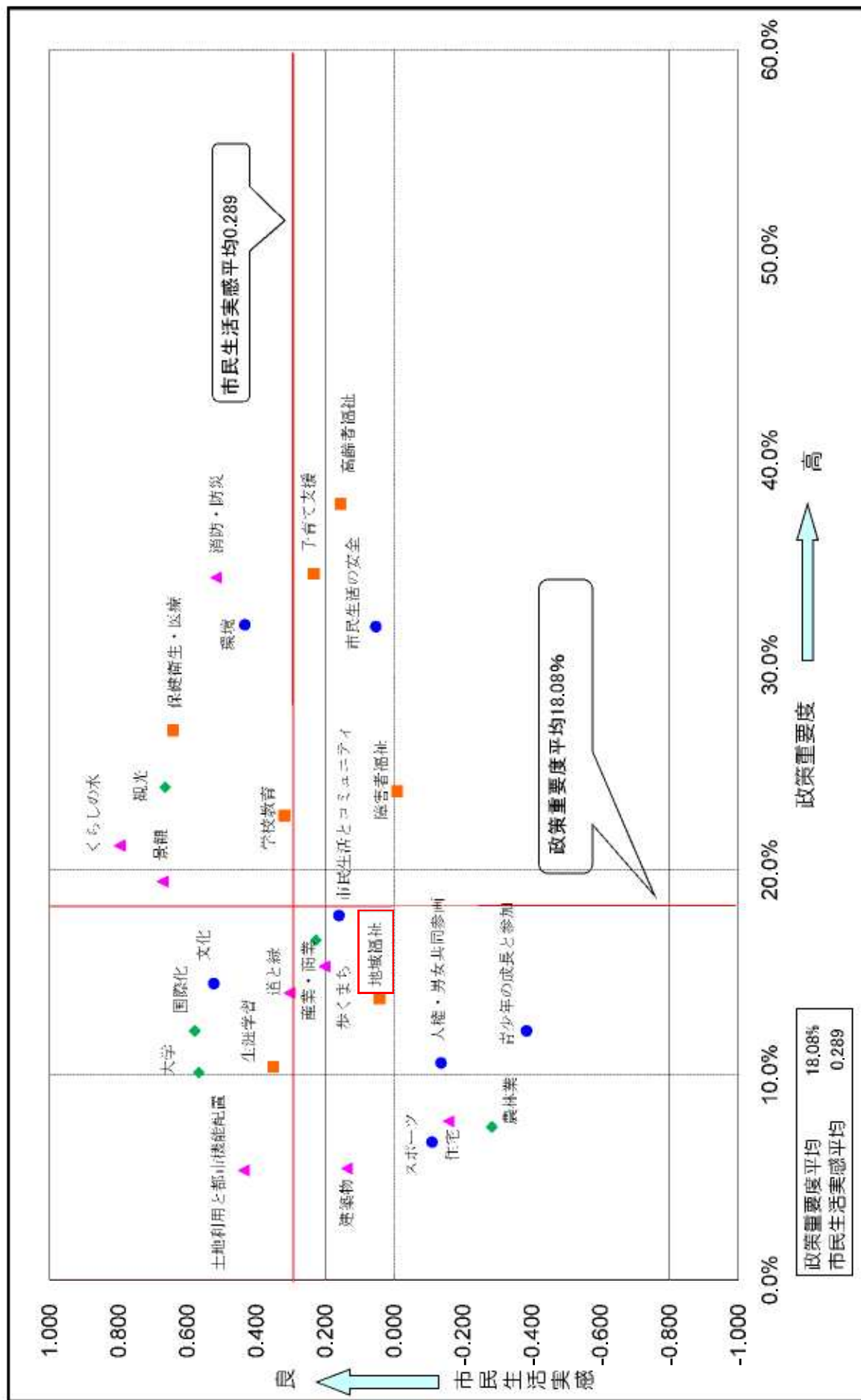
そう思う	どちらかというと思う	どちらともいえない	どちらかというと思わない	そう思わない	無回答	総回答数	有効回答数
37	93	81	28	20	23	282	259

$$\frac{37 \times 2 + 93 \times 1 + 81 \times 0 + 28 \times (-1) + 20 \times (-2)}{259} = 0.382$$

政策重要度と市民生活実感のマトリックス (23年度)

政策重要度：回答数÷有効回答数
市民生活実感：政策ごとの生活実感の平均数値

●＝うるおい, ◆＝活性化, ■＝すこやか, ▲＝まちづくり



性別		
性別	回答数	構成比
1.男	432	37.30%
2.女	691	59.70%
無回答	34	2.90%
合計	1,157	100.00%

居住区		
居住区	回答数	構成比
1. 北区	88	7.60%
2. 上京区	55	4.80%
3. 左京区	125	10.80%
4. 中京区	89	7.70%
5. 東山区	32	2.80%
6. 山科区	103	8.90%
7. 下京区	68	5.90%
8. 南区	76	6.60%
9. 右京区	156	13.50%
10. 西京区	116	10.00%
11. 伏見区	222	19.20%
無回答	27	2.30%
合計	1,157	100.00%

年齢		
年齢	回答数	構成比
1.20 歳代	90	7.80%
2.30 歳代	165	14.30%
3.40 歳代	173	15.00%
4.50 歳代	180	15.60%
5.60 歳代	249	21.50%
6.70 歳代	187	16.20%
7.80 歳代	86	7.40%
無回答	27	2.30%
合計	1,157	100.00%

職業		
職業	回答数	構成比
1.自営業・自由業	139	12.00%
2.会社員・公務員等給与所得者	317	27.40%
3.主婦・主夫	308	26.60%
4.学生	17	1.50%
5.無職	236	20.40%
6.その他	94	8.10%
無回答	46	4.00%
合計	1,157	100.00%

京都市での居住年数		
居住年数	回答数	構成比
1. 5 年未満	69	6.00%
2. 5～11 年未満	80	6.90%
3. 11～31 年未満	244	21.10%
4. 31 年以上	730	63.10%
無回答	34	2.90%
合計	1,157	100.00%